



川越市教育委員会 文化財保護課 副課長 田中 信 氏

NHK朝の連続テレビ小説「つばさ」の舞台として全国に名前が知られるようになった東京近郊の小江戸・川越。町全体の3分の1を焼失したと伝えられる1893年の大火以降、通り沿いは、木造の建物を漆喰で塗り込めた店蔵造りの建物で再建されていく。いまでは蔵造りの町として、休日でも平日も、町歩きを楽しむ観光客でにぎわう。シンボルは、江戸時代に建造されて、大火の翌年、再建された川越市指定文化財「時の鐘」。町並みにずっと溶け込む3層構造の鐘撞(かねつき)堂だ。文化財としてどのような維持管理に取り組んでいるか、市教育委員会文化財保護課副課長の田中氏に聞いた。

● 木材保護塗料「キシラデコール」を用いて 小江戸・川越のシンボル、「時の鐘」を守る

—時の鐘とは、どのような歴史を持つ建物なのか。

田中 ● 江戸時代に建造されたもので、明治26年(1893年)の大火で焼失してしまいました。いまの建物は、大火の翌年に再建されたものです。

高さは16m。奈良の大仏とほぼ同じです。木造で、鐘撞(かねつき)堂にしては珍しい3層構造。棟梁は関根松五郎という、大火後の復興で中心になった人物です。

江戸時代には、一刻ごとに時を知ら

せる回数だけ、その間、半刻ごとには3回、鐘をついていたようです。ところが大正時代に入ると、ラジオで時報を始めたこともあって、次第に役割を終えていきます。

戦後、毎年6月10日の時の記念日につく程度だったのに対して、地元から復活を求める声が起こります。昭和50年(1975年)には、民間の団体が自動

鐘打機を寄贈して、6時、12時、15時、18時の1日4回、鐘を再びつきました。

防腐・防虫効果を考えて 木部にキシラデコールを塗布

—維持管理に関しては、どのように取り組まれていますか。

田中 ● 建築面に関しては、昭和59年(1984年)に大がかりな補修工を実施しました。木部に防腐剤を塗布し、屋根の銅板をふき替えたほか、避雷針を設置しました。

平成7年(1985年)にも、工事を実施しています。この時は、木部には防腐剤としてクレオゾートを塗布し、金属部には合成樹脂調合の塗料を施工しました。床を一部張り替えたり、ハトよけの防鳥ネットを張ったりもしました。

最近では、平成16年(2004年)、腐朽菌などの被害から守る狙いで、木部には保護塗料を塗布しました。この時はキシラデコールを用いています。



川越の町並み。メインストリート沿いには、蔵造りの町屋が建ち並び、平日でも、日帰り観光客の姿が目につく



スカイラインのそろう町並みの中にずっとそびえる時の鐘。1958年、川越市の指定文化財に指定された。96年には、当時の環境庁で「残したい日本の音風景100選」に選ばれた。鐘の音はいまも町に鳴り響く

—木材保護塗料にキシラデコールを採用されたのは、なぜですか。

田中 ● まず、防腐・防虫効果を期待できる点です。一方で、近所に住宅が建っているうえに、観光客も多いので、安全性にも配慮しました。木部の質感を保てるという点も大事です。耐候性が高い、もちろんこれも、理由の一つです。

建造当時の姿を維持できるか 文化財保護の観点から重視

文化財保護の観点で重視するのは、建造当時の姿をどれだけ維持できるか、という点です。建造物が周辺の環境を損なわないようにすること、近くに住宅が建っている環境では、安全性に配慮することも、同じように大事と考えています。

市内では、防腐・防虫効果を持つ製品を使用している例が、ほかにもいくつかあります。例えば、近くでは重要文化財の大沢家住宅や埼玉県指定文化財の川越城本丸御殿がそうです。ともに、防腐・防虫剤としてキシラモンを使用しています。

—キシラデコールを使って、いかがでしたか。

田中 ● 効果は想定していた通りだと思

▶ 宿命と割り切って、自然体で維持 「大沢家住宅」に防腐・防蟻剤「キシラモン」

蔵造りの町並みで唯一の重要文化財、大沢家住宅。この建物では、木部を保護する防腐・防蟻剤として、日本エンバイロケミカルズで製造・販売する「キシラモン」を使用している。

建築されたのは、1792年。江戸時代にさかのぼる。1893年の大火では、耐火性に富んだその造りから焼失を免れることもあって、再建の過程では、多くの家主が造りをまねたと伝えられている。「店蔵造りの原点」——大沢家の現在の当主、大沢東洋氏自身、そう胸を張る。

上下階を貫く2本の大黒柱、奥行き



重要文化財の大沢家住宅。1893年の大火後、店蔵造りが採用されるきっかけを与えた建物ながら、外観はほかと比べると至ってシンプル

大沢家当主 大沢 東洋 氏

30cmの漆喰を塗り固めた壁、漆喰を塗り込めた土格子……。大沢家住宅の造りには、耐久性を高める数々の工夫が散りばめられている。

建築当時の贅(ぜい)を尽した造りも見られる。例えば、2階床の間の床柱。床と天井近くだけあって、その間は切断された格好。直径15cmほどで、太めのサンショウを用いている。

大沢氏は「ここまで太いのは樹齢300年ほど。真っ直ぐな部分だけ使って、中抜きで仕上げています。広く見せる工夫です」と説明する。

維持管理に関する姿勢を問うと、「維持と意地。宿命と割り切って、自然体で臨んでいます」と、明快に答えた。

います。

塗り替えも、いま考えています。近いうちに実施する耐震診断・改修で組む足場を利用して、木部を塗り替える予定でです。

ただ、あまり早くに診断・改修に入ってしまうと、連続テレビ小説「つばさ」を見て訪ねて来た観光客が残念に思うであろうから、様子をしながら時期を決める考えです。



木材保護のトータルソリューションパートナー
日本エンバイロケミカルズ株式会社

キシラデコール

JASS18 M-307 適合品



読者を対象に、建材の職人への製品使用教育をアンケート調査。2009年9月28日付



キシラモン

取寄販売
日本エンバイロケミカルズ株式会社
TEL: 03-5444-9872

【お問い合わせ先】

大阪 〒541-0051 大阪市中央区備後町三丁目6番14号 アーバンクロス備後町ビル ☎ 06-6238-3428 ☑ 06-6268-3424

東京 〒105-0014 東京都港区芝二丁目5番10号 芝公園NDビル3階 ☎ 03-5444-9872 ☑ 03-5444-9860

www.jechem.co.jp

【キシラデコールに関する情報満載!】 www.xyladecor.jp